「教師の心に火をつけるＥＳＤ研修」について

～ＥＳＤ普及活動を推進される皆様へ～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　手島利夫

講義スタイルでＥＳＤの理屈を教えても、先生たちがその気にならないと意味がないと思いますので、2017年の3月にこのような体験的・参加型の学びを取り入れたＥＳＤのワークショップ研修を開発しました。

これは、私が今まで授業者として指導してきた問題解決的な授業スタイルで研修会を進めればいいのだと気づき、生み出したものです。

①　問題に気付く部分。・・・「私たちの世界は、皆さんの子ども時代と比べると、どのような点が大きく変わってきたでしょうか。5つ以上言えるように考えてください」という問いかけから始めます。自分たちの周りを見つめ直し、社会の変化の大きいことに気づきます。近くの席の方との情報交換（昔話など）は楽しい導入になります。

②　この社会を持続不可能にしかねない問題・課題を出し合い（ポストイット紙に一枚に一項目ずつ書き出し）、17のＳＤＧｓの視点（ロゴのカード）を貼った黒板上で整理します。様々な課題があることに気づきます。でも、その問題意識は、言葉だけの理解であることに気づかせます。課題意識を揺さぶります。

③　厳しい世界が待っていることを自覚した先生方に対して、「あなたが文部科学大臣だとしたら、どのような教育を進めますか」

（別に、校長先生だったら、市の教育長だったらでもいいし、中央教育審議会委員だったら、でも構いません。要するに「自分ごと」にします）

　キーワードをポストイットに書かせ、グループごとに読み合い、カードを模造紙上に構成しながら、どんな教育施策が重要か模造紙上にまとめます。

　それを使ってワールドカフェ方式でグループを越えた交流をさせます。他のグループの話を元に手直しをする時間も取ります。

　この活動等を通じて学習指導要領を読み解く視点を各自が持ちます。

④　様々な教育方針のアイデアを確認した上で、では「日本の文部科学大臣はどんな教育方針を示しているのだろうか。学習指導要領を読んで、5分間で確認しよう。」と資料を配り、マーカーで色を付けたり、下線を引いたりしながら重要な語句等を捉えながら読み込ませます。

* 校長といえども、学習指導要領前文や総則をＥＳＤの視点をもって意識的に読み込んだ経験は、あまりないものと思います。ですからこの集中した5分間（７～８分くらいまでなら伸ばしてもいいです）は貴重な時間となります。

　その上で、指導要領の解説プレゼンに入ります。（これは文部科学省がつくった解説でなく、手島がＥＳＤの視点から解説しているものです。）

　このような学びの進め方をします。そうすると、学習指導要領の素晴らしさや重要な点が共感的に心にもしみこみます。

　このように、先生方にも、主体的・対話的で深い学びをしてもらう必要があると思います。ただし、このワークショップ・スタイルでの研修をするには、上手な指導者が取り組んでも、最低でも1時間30分はかかります。

　しかし、ＥＳＤの重要性や、その進め方を心と体で理解し、実践者として育つ契機となるなら、極めて重要な学びとなります。

　「ＥＳＤとは・・・」などという知識を伝達されただけの人とは、その後の歩みが大きく異なってくることは、ほぼ間違いありません。

　もしあなたが、このスタイルでの演習を進めるときには、次のことにご留意ください。

1. どんな意見も、決して否定しないこと。「なるほど、面白い意見ですね」などと、まず受け入れてください。
2. 命令して動かすのでなく、「こうしてみましょう。時間は2分間でお願いします。さあ、どうぞ」「はい、ありがとうございました。途中の方も、ちょっと鉛筆を置いていただけますか。はい、ありがとう！」

　　などと、感謝の言葉などを入れながら、話をすすめましょう。高圧的に教えられて、自分の学びになることって、あり得ないですからね。

1. ファシリテーターとして、多様な意見が出たとしてもそれはこの話のどこに位置づくのか、判断でき、活かせるだけの構造的な知識や理解も身に付けるようになっていきましょう。（誰でも初めからできるはずもありません。ご安心ください）

　資料のプレゼン画面等で・講演やワークショップの資料として使える部分がありましたら、ご活用ください。

　皆様方が、ＥＳＤ普及の推進者としてご活躍くださるために作ったホームページです。